

問題



海の生き物を脅かすプラごみ ～見て、聞いて、体験しよう～

知っていましたか？海の現状

世界で1年で海に流出するプラごみの量は、約800万トン

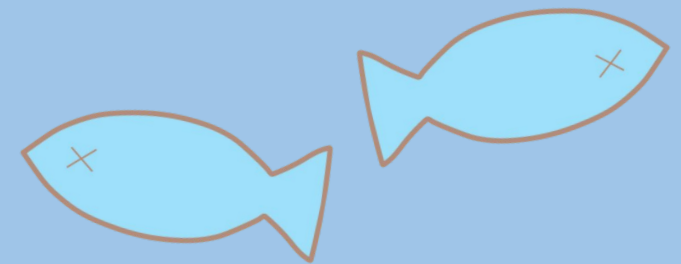
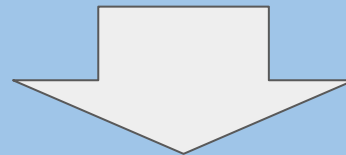
海には既に1億5000万トンものゴミがある

その中でもプラスチックゴミが多く、魚が誤ってゴミを飲み込み、死んでしまうこともある
そのため絶滅危惧種を含む700種もの生物が傷つけられている

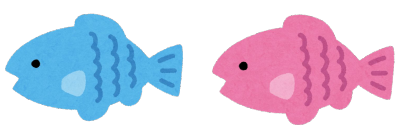


数字に表すと
すごい数！！

なぜ海洋汚染問題が解消されないのか



海が存在、ゴミの存在、生物の存在が身近でない



理由



1

海への意識

海水浴場などは、自治体や地域の方が美化を保つ管理をしており、ゴミが溢れている海を実際に見ることは無い。映像などでは、意識向上になかなか繋がらない。



2

ゴミへの意識

あらゆるゴミは、川や排水溝を経由して海に繋がる。一人一人のポイ捨てが、最終的に大きな影響を与える。その想像力を伝える必要がある。



3

生き物への意識

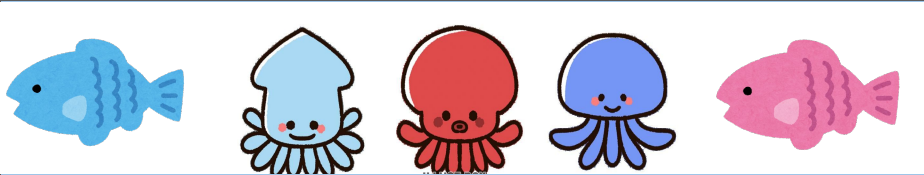
私たちの生活向上のために、多くの魚や水性動物が影響を受けてる。プラスチックは安価で丈夫な物質だが、自然に還らない物質だ。



4

目に見えた情報に囚われている

水族館は、海の生物の「キレイ」な部分だけを描写している。しかし、本当はもっと過酷な状況下で生物は暮らしている。



改善



どれほどごみによって海が汚染されているか自分たちの目で見て知り、
どれだけ危険で命に関わるか**生き物の立場になって考える**必要がある。

そこで多くの人に伝えるため、海の現状を再現しようと考えた。



水族館を活用する

水族館は親子連れや家族など年齢層が広く、目につきやすい場所である。そのため人がたくさん集まることを利用しイベントを行うことで注目を集めると考えた。

見て、聞て、体験 イベント



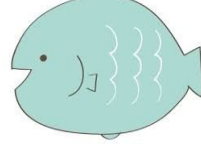
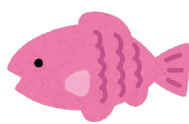
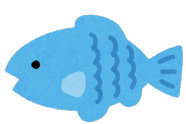
具体的にはどんなことするの？

~内容~

人が入ることが出来るサイズの水槽やプールに海岸清掃で市民が調達したゴミを浮かべ、現在海に流れているゴミの種類、量を再現し実際に見てゴミによる危険性を感じてもらおう。

そして、間近で見たり、安全を踏まえた上で水槽の中に入って動きづらさを体験してもらおう。





効果



見る、聞くだけではなく、**体験**を踏まえることによって、より**主観的**に生き物の立場になってゴミ問題について考えることができるのではないか。

そうすることで小さい子から大人の方までゴミの危険さを知ってもらう事ができる。また、学校のプールの授業で**実践**してみたり義務教育中などから**授業の一環**としてゴミ問題に深く関わる事で対策ができるのではと思った。



【2020年 水族館年間来場者数 上位ランキング】

- 第1位 沖縄県 美ら海水族館 約332万人
- 第2位 大阪府 海遊館 約263万人
- 第3位 愛知県 名古屋港水族館 約200万人

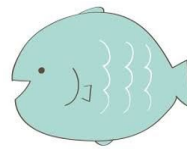
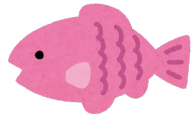
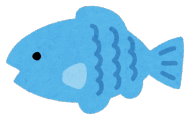
【ワースト1位】

- 北海道 ノシャップ寒流水族館
- 年間来場者数 1日あたり
- 約3万7398人 約100人

(google参照)

開催の場所による**メリット**

上記の上位ランキングから、多くの人を訪れる場所で開催することでより**影響力が増す**と考える。また、入場者数が少ない水族館の**応援企画**としてこのイベントを開催し、学校の修学旅行や環境学習などで学生が訪問すれば水族館側の**利益**に繋がる。

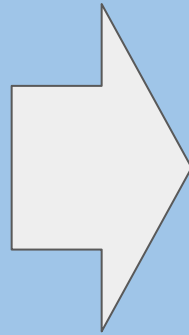


1.海への意識

2.ゴミへの意識

3.生き物への意識

4.目に見えた情報
に囚われている



- イベントを開催することによる1人1人の意識向上
- イベントに参加した学生がレポートやポスター制作し、水族館に掲示してもらうことで、訪れた人々の興味を引く
- 海にあるゴミの減少
- 生き物の生活の安全の確保が実現可能に繋がる

海に流れるゴミ
ゴミによる生き物の
死亡数



ゼロ



を目指す

~Future~

海洋のゴミをゼロにし、
生き物が安心して生活できる海

を実現させる